

所属	言語文化研究科 英語・英語教育専攻 修士課程	修了年度	平成 25 年度
氏名	榎本 すみれ	指導教員 (主査)	岡 秀夫

論文題目	リズム感覚の早期英語教育への適用一言語リズム素の観点から
------	------------------------------

本文概要

2011 年度より、小学校高学年に外国語活動の時間が正式に導入された。小学校での外国語活動では、音声への親しみと異文化理解およびコミュニケーション力の素地育成に重点が置かれている。本論文では、音声認識やコミュニケーション力向上を含めた英語学習における音楽素材使用の利点を挙げ、音楽素材を用いた英語学習教材の作成を目標とする。

第 1 章では音楽が言葉を越えたコミュニケーション手段として異文化理解・交流に果たしてきた役割を知り、現代に至る 160 年余りの歴史を“音楽の流入”という視点から眺め、日本における洋楽の定着過程を概観し、異文化理解や交流の為にも洋楽を覚えることは有益であることを論じる。

第 2 章では音声的、言語的、音楽的な視点から日本人の英語習得の問題点と改善方法を述べ、歌唱を通じた英語習得法を考察する。そこで重要となる点は「英語の喉発音・発声・態度」、「音の繋がりやシラブルを意識し、英語の強勢拍律リズムを身体の動きと共に体験する」、「軽快な拍子を意識する」ということを述べる。

第 3 章では言語の獲得および第二言語習得論と日本の英語教育について概観し、既存の音楽教材・音楽素材を分析し、学習に対する音楽素材使用の利点を挙げる。

第 4 章では教材作成上の留意点や成長段階の対象者への注意点を述べ、教材の作成例と指導例を述べ、実際に行った簡単な実験の結果報告をする。

第 5 章は総括とし、論文全体で得られた示唆をまとめる。歌唱を通じた英語学習では強勢拍律構造への気づきを得ることやリズムキープをする練習が必要であり、その為には言語リズム素のバウンシングリズムである、跳ねるような軽快な拍での強勢拍律の動きを伴った歌唱が有効であるということが確かめられた。